



命を守る

「自分は**元気だから**急病になることはない」

「いつも健康には**気をつけている**」

「いままで**病気**にはなっていない」

「**運動しているから大丈夫!**」

そんな過信をしていませんか？

今回は、当別町における消防救急の現状、もし救急車を必要とする事態が発生したとき、大切な「命」を守るための方法についてお知らせします。

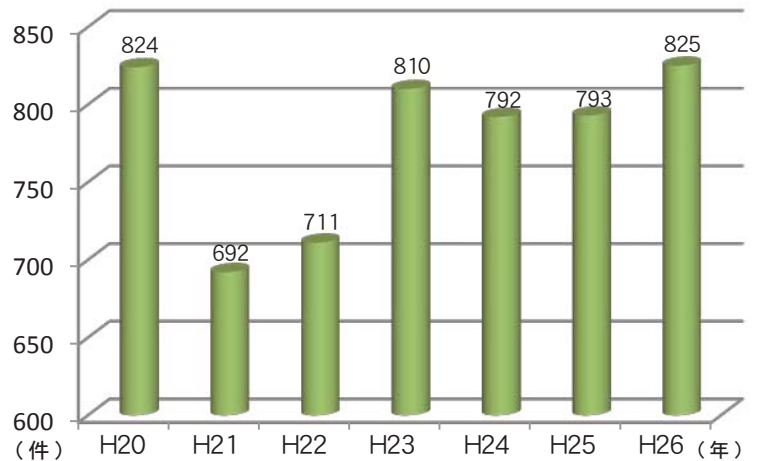
1日に約2.1回

平成20年から平成26年の当別町における救急出動件数を調べたところ、年間平均で778件であることがわかりました。【図1】

この件数は1日平均に換算すると約2.1回、町内を救急車が走っていることになります。

普段、何げなく生活しているなかで、ほぼ毎日のように当別消防署は救急出動しており、事故・怪我・急病により助けを求める方の要請にこたえています。

【図1】当別消防署の救急出動件数（平成20年～26年）



出動指令



「119番通報」は石狩北部地区消防事務組合消防指令センター（石狩市）につながり、当別消防署に出動指令が出されます。

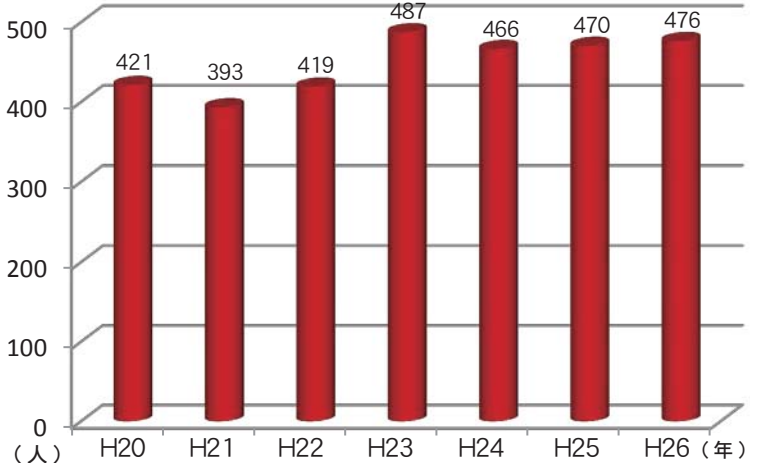
急病搬送が大半を占める

急病で実際に病院まで救急搬送された方は、年間平均で447人います。【図2】

交通事故や怪我などの事故等で救急車を呼ぶケースもありますが、「急病」での搬送がおおよそ6割を占めています。

また、一刻を争う事態の救急搬送には、ドクターヘリを要請して、病院へ搬送する事例が増えています。

【図2】急病での救急搬送者数（平成20年～26年）




出動要請を受けて現場に到着したドクターヘリ（町内にて）



1秒も無駄にできない

急に倒れてしまった場合、心肺停止状態になったときに何もせずに救急車の到着まで待っていると、時間の経過とともに生存率が著しく低下するといわれています。そのような状況でいかに「命」を守ることができるのか。心肺蘇生法はどのように行うのか、その流れを確認してみましょう。


1



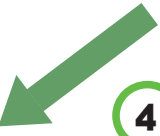
本人の意識があるか確認するために、「大丈夫ですか？」など声をかけながら肩を軽くたたき反応を見ます。
※反応がなければ、速やかに 119 番通報をしてください。




2



約 10 秒ほど、胸や腹の上下運動（呼吸）があるか確認します。
※呼吸が確認できた場合は、③以降の胸骨圧迫などを行う必要はありません。




3



胸の中心部に手を重ねて置き、1 分間に 100 回のテンポで約 5 センチほど沈む程度、強めに 30 回胸骨圧迫を行います。
※ひじを曲げないようにしましょう。



4



あごを持ち上げ喉の奥を広げて空気の通り道を確認します。その後、人工呼吸を 2 回行います。
※鼻をつまんで、空気が抜けないように注意しましょう。

心肺蘇生法は救急隊到着まで行うか、本人が目を開けたり普段どおりの呼吸に戻るまで③と④を繰り返して行いましょう。

万が一に備える

救えた命を知識が無いために救えなかった…。そんな後悔をしないためにも、救急対応に対する知識を身につけておくことが大切です。

当別消防署では、救命講習を実施していますので、家族・町内会・各種団体などで受講することを検討してみてもいかがですか？

講習内容

- 普通救命講習
3 時間の講習で心肺蘇生法と A E D の取扱い、異物の除去法、止血法を習得します。
- 一般救急講習
時間と内容を受講者の希望により行います。



【問合せ】 当別消防署救急救助課救急係 ☎ 23 - 2537